

## 大学生が振り返るキャリア教育の在り方

戸 田 浩 暢\*

(2016年11月24日 受理)

### University Students' Reflections on "Career Education"

Hironobu TODA\*

For this study, a questionnaire was distributed to 69 university students (seniors in the Department of Child Education and Psychology, Faculty of Human Life Studies, Hiroshima Jogakuin University) asking them to look back on their "career education" during elementary school. Furthermore, the reality of elementary school "career education" was analyzed. As a result of this study, issues that became apparent were: (a) making children persevere to realize their dreams; and (b) getting children to recognize they are helping their class and school when carrying out things such as class duties.

**Keywords:** career education キャリア教育, career guidance 進路指導, elementary school 小学校

#### 1. はじめに

平成11年12月、「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（中央教育審議会答申）において、キャリア教育を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要があることが提言された。この答申以後、キャリア教育については、平成14年11月、「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」（国立教育政策研究所）という調査研究報告書が公表され、文部科学省は、「キャリア教育推進地域指定事業」（平成16年度）、「キャリア教育実践プロジェクト」（平成17年度）を実施するなど、様々な施策を実施し始めた。

広島県においても、平成16年度から上記の事業指定を受け、「尾三地域」で実施された。また、「キャリア教育実践プロジェクト」は、「竹原市地域」・「府中市地域」・「庄原市地域」・「北広島町地域」の4地域で実施された。そして、平成17年度から、広島県独自の「キャリア教育推進事業」が、「広島地域」・「呉・賀茂地域」・「尾三地域」・「福山地域」・「備北地域」の5地域で実施され、効果的なキャリア教育の実践モデルを開発するための学習指導案・教材開発やそれらの有効性の検証が取り組まれた。その他、「キャリア教育推進フォーラム（後に「広島県キャリア教育推進フォーラム」）」が実施されると共

に、中学校・高等学校・特別支援学校の全ての進路指導主事を対象とした「キャリア教育コーディネーターセミナー」が実施されたり、「文部科学省研究開発校キャリア教育の研究」や、「厚生労働省職業意識形成支援事業」、「経済産業省地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」、「経済産業省起業家教育促進事業」等が実施された。そして、「広島県立教育センター」においても、平成17年度は「初任者研修（小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校小学部及び中学部・高等部）講座」、「教職経験者研修（6年目）—小学校・中学校・高等学校—講座」、「10年経験者研修講座—進路指導—」、「新任進路指導主事（中・高等学校）研修講座」、「教員長期研修生スペシャルウィーク」、「21世紀教育セミナー」等々でキャリア教育に係る講座が開かれ、教員長期研修で初めて「キャリア教育」が設けられ、研修生を受け入れた<sup>1)</sup>。

このように、広島県において、平成16年度以降、急速にキャリア教育が実践されるようになり、10年余りが経過した。その間、キャリア教育支援会議から、「広島県におけるキャリア教育の充実に向けて（提言）」（平成20年3月）が出されたり、「キャリア教育の推進」のパンフレットや「キャリア教育実践の手引き」が示されてきた。ここで、実際に行われてきた小学校でのキャリア教育（進路指導）を体験者の側から振り返り、キャリア教育の在り方を考えていく必要があるのではなかろうか。

\* 広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科准教授

本稿では、広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科4年の学生（69名）に対して、小学校時代のキャリア教育（進路指導）に係るアンケートを実施し、小学校時代のキャリア教育（進路指導）の実際を分析することである。また、その分析を元に、今後の小学校における望ましいキャリア教育（進路指導）の在り方を考察したい。

## 2. 研究の目的と方法

本研究の目的は、広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科4年の学生（69名）に対して、小学校時代のキャリア教育（進路指導）に係るアンケートを実施し、小学校時代のキャリア教育（進路指導）の実際を分析し、その分析を元に、今後の小学校における望ましいキャリア教育（進路指導）の在り方を考察することである。

研究の方法としては、次の表1に示した質問のアンケートを実施し、得られたデータ・記述を分析していく。なお、アンケートに関しては、平成28年6月30日に実施した。アンケート項目に関しては、「わたしのキャリアノート～夢のスケッチブック～（児童生徒用6年）」（広島県教育委員会ホームページホットライン教育ひろしま）を参考にしている。

表1 小学校時代のキャリア教育（進路指導）に係るアンケート

1	小学校6年生のキャリア教育について振り返ってください。該当する番号に「○」を付けてください。「1」は「当てはまる」、「2」は「やや当てはまる」、「3」は「あまり当てはまらない」、「4」は「当てはまらない」です。
①	話し合い（学級会、委員会、児童会など）には積極的に参加していましたか。
②	何かを決めるとき、自分の立場だけでなく他の人の立場にも立って考えて、決めていましたか。
③	身近な産業や職業の様子を知っていましたか。
④	働くことの大切さを知っていましたか。
⑤	学校の中で、高学年としての役割を果たしていましたか。
⑥	将来、やりたい仕事について考えていましたか。
⑦	係、委員会、児童会などでは、学級や学校をよくすることを考えながら活動していましたか。
⑧	将来の夢のために、努力していることがありましたか。
2	小学校6年生の時、自分の良いところや頑張っているところはどんなところか知っていましたか。また、

それはどのようなところですか。

- 3 小学校6年生の時、中学校について調べたことはありますか。また、それはどんな内容でしたか。
- 4 小学校6年生の時に、学校全体に関わる仕事をしたときのことで、心に残っていることは何ですか。
- 5 小学校6年生の時、自分の将来の夢は何でしたか。
- 6 上記の「5」に関わって、その夢をかなえるために、どのようなことを頑張っていましたか。
- 7 自分の生き方に影響を与えた小学校の先生はどのような人で、どのような影響を受けましたか。
- 8 小学校の先生以外で、小学校時代に自分の生き方に影響を与えた人は誰ですか。
- 9 上記の「8」に関わって、どのような影響を受けましたか。
- 10 自分の生き方に影響を与えた小学校時代の出来事は何かですか。

## 3. 小学校時代のキャリア教育（進路指導）の実際とその分析・考察

この節では、前節で示したアンケート項目に従って、小学校におけるキャリア教育（進路指導）の実際についてデータ・記述を元に分析・考察をしていく。

### （1）小学校6年生のキャリア教育についての振り返り

この項では、次に示す表2の結果を元に分析・考察を行う。

表2 小学校6年生のキャリア教育についての振り返り

	1	2	3	4
①	13名 (18.8%)	30名 (43.5%)	19名 (27.5%)	7名 (10.1%)
②	12名 (17.4%)	41名 (59.4%)	14名 (20.3%)	2名 (2.9%)
③	6名 (8.7%)	24名 (34.8%)	34名 (49.3%)	5名 (7.2%)
④	7名 (10.1%)	31名 (44.9%)	28名 (40.6%)	3名 (4.3%)
⑤	20名 (29.0%)	34名 (49.3%)	13名 (18.8%)	2名 (2.9%)
⑥	24名 (34.8%)	27名 (39.1%)	12名 (17.4%)	6名 (8.7%)
⑦	7名 (10.1%)	28名 (40.6%)	26名 (37.7%)	8名 (11.6%)
⑧	7名 (10.1%)	20名 (29.0%)	28名 (40.6%)	14名 (20.3%)

①の「話し合い（学級会、委員会、児童会など）には積極的に参加していましたか。」では、「1」の「当てはまる」が13名（18.8%）で、「2」の「やや当てはまる」が30名（43.5%）となっており、43名（62.3%）が肯定的回答をしていることが分かる。一方、「3」の「あまり当てはまらない」が19名（27.5%）で、「4」の「当てはまらない」が7名（10.1%）となっており、26名（37.7%）が否定的回答をしていることが分かる。肯定的回答が否定的回答より25%程多い割合になっていることが分かる。他者の目を気にすることが多くなる小学校6年生女子児童の状況を考えた場合、話し合いに積極的に参加している割合が高いのではなかろうか。

②の「何かを決めるとき、自分の立場だけでなく他の人の立場にも立って考えて、決めていましたか。」では、「1」の「当てはまる」が12名（17.4%）で、「2」の「やや当てはまる」が41名（59.4%）となっており、53名（76.8%）が肯定的回答をしていることが分かる。一方、「3」の「あまり当てはまらない」が14名（20.3%）で、「4」の「当てはまらない」が2名（2.9%）となっており、16名（23.2%）が否定的回答をしていることが分かる。肯定的回答が否定的回答を50%以上上回っていることが分かる。小学校6年生になると、自己中心的な考え方から他者を気遣う考え方になっていっているのではなかろうか。

③の「身近な産業や職業の様子を知っていましたか。」では、「1」の「当てはまる」が6名（8.7%）で、「2」の「やや当てはまる」が24名（34.8%）となっており、30名（43.5%）が肯定的回答をしていることが分かる。一方、「3」の「あまり当てはまらない」が34名（49.3%）で、「4」の「当てはまらない」が5名（7.2%）となっており、39名（56.5%）が否定的回答をしていることが分かる。肯定的回答に比べ否定的回答が13%程多い割合になっていることが分かる。小学校6年生では、学校の生活が中心であり、身近であっても産業や職業の様子を具体的に理解することが難しいのではなかろうか。

④の「働くことの大切さを知っていましたか。」では、「1」の「当てはまる」が7名（10.1%）で、「2」の「やや当てはまる」が31名（44.9%）となっており、38名（55.1%）が肯定的回答をしていることが分かる。一方、「3」の「あまり当てはまらない」が28名（40.6%）で、「4」の「当てはまらない」が3名（4.3%）となっており、31名（44.9%）が否定的回答をしていることが分かる。肯定的回答が否定的回答より10%程多い割合にとどまっていることが分かる。小学校6年生では、学校の生活が中心であり、具体的に働くことの大切さを理解する

ことが難しかったのではなかろうか。

⑤の「学校の中で、高学年としての役割を果たしていましたか。」では、「1」の「当てはまる」が20名（29.0%）で、「2」の「やや当てはまる」が34名（49.3%）となっており、54名（78.3%）が肯定的回答をしていることが分かる。一方、「3」の「あまり当てはまらない」が13名（18.8%）で、「4」の「当てはまらない」が2名（2.9%）となっており、15名（21.7%）が否定的回答をしていることが分かる。肯定的回答が否定的回答を55%以上と大きく上回っていることが分かる。小学校6年生は委員会活動・諸行事等において学校生活の中心を担う学年であり、このような結果になったのではなかろうか。

⑥の「将来、やりたい仕事について考えていましたか。」では、「1」の「当てはまる」が24名（34.8%）で、「2」の「やや当てはまる」が27名（39.1%）となっており、51名（73.9%）が肯定的回答をしていることが分かる。一方、「3」の「あまり当てはまらない」が12名（17.4%）で、「4」の「当てはまらない」が6名（8.7%）となっており、18名（26.1%）が否定的回答をしていることが分かる。肯定的評価が否定的回答を50%近く大きく上回っていることが分かる。小学校6年生になると、将来の進路について考えを深め始めているため、このような結果になったのではなかろうか。

⑦の「係、委員会、児童会などでは、学級や学校をよくすることを考えながら活動していましたか。」では、「1」の「当てはまる」が7名（10.1%）で、「2」の「やや当てはまる」が28名（40.6%）となっており、35名（50.7%）が肯定的回答をしていることが分かる。一方、「3」の「あまり当てはまらない」が26名（37.7%）で、「4」の「当てはまらない」が8名（11.6%）となっており、34名（49.3%）が否定的回答をしていることが分かる。肯定的評価が否定的回答とほぼ同じ割合にとどまっていることが分かる。⑤同様に、小学校6年生は学校生活の中心を担う学年であるが、積極的により良い学校・学級づくりまでは思いが至っていなかったため、このような結果になったのではなかろうか。

⑧の「将来の夢のために、努力していることがありましたか。」では、「1」の「当てはまる」が7名（10.1%）で、「2」の「やや当てはまる」が20名（29.0%）となっており、27名（39.1%）が肯定的回答をしていることが分かる。一方、「3」の「あまり当てはまらない」が28名（40.6%）で、「4」の「当てはまらない」が14名（20.3%）となっており、42名（60.9%）が否定的回答をしていることが分かる。肯定的評価より否定的回答が40%近く多い

割合になっていることが分かる。⑥に関わって将来の夢は考えているが、それに向かった具体的な努力をどのようにしていけば良いか考えることができていないため、このような結果になったのではなかろうか。

## (2) 自分の良いところや頑張っているところ

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。なお、枠内の数字は人数を示している（全ての枠内同様）。

- ・ 友達の気持ちを考えた言動 11
  - ・ 積極的な行動や努力（責任感・真面目・一所懸命） 10
  - ・ 習い事（ピアノ・エレクトーン・書道） 10
  - ・ スポーツ（バレーボール・フットベースボール） 7
  - ・ 委員会の仕事 7 ・ 勉強 5
  - ・ 1年生の世話（遊び・給食準備） 3
  - ・ クラブ活動 2 ・ 穏やかで優しい言動 ・ 明るく元気
  - ・ 自分の気持ちの伝達 ・ 話し合いの場面での発言
  - ・ 皆勤 ・ 器用さ
- 「空白・特になし」14名（20.3%）

「自分の良いところや頑張っているところ」に関しては、「友達の気持ちを考えた言動」（11名）や「積極的な行動や努力（責任感・真面目・一所懸命）」（10名）と、日常生活での自己の言動が最も多く記述されていた。小学校6年生の自分を振り返った場合、友達との関わりや日頃の努力を評価したのではなかろうか。これに関わって「勉強」（5名）や自己の多様な良さを評価している記述が目立った。また、「習い事（ピアノ・エレクトーン・書道）」（10名）や「スポーツ（バレーボール・フットベースボール）」（7名）、「クラブ活動」（2名）と、授業外での習い事や部活動の頑張りを評価していることが記述されていた。これは、学校での生活を越えて励んだことが印象に残り、自己の成長と繋げて評価したのではないだろうか。さらに、「委員会の仕事」（7名）や「1年生の世話（遊び・給食準備）」（3名）と、学校で与えられた仕事に対して評価する記述がみられた。6年生は学校生活の中心的な役割を果たす学年であり、委員会等で様々なことを頑張ってやり遂げたことを評価しているのではなかろうか。「空白・特になし」が14名（20.3%）はするが、概ね自分の良いところや頑張っているところが分かっていると考えられる。

## (3) 中学校について調べたこと

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。

- ・ 部活動 10 ・ 受験する中学校の様子（制服・校舎） 5
  - ・ 授業内容（教科） 4 ・ 家族からの情報 3
  - ・ 先輩からの情報 3 ・ 試験内容 ・ 通学方法
- 「空白・特になし」47名（68.1%）

「中学校について調べたこと」に関しては、「部活動」（10名）が一番多かった。小学校でも部活動はありはするが、土日を含めた活動で本格的に始まる部活動に対して最も関心が高かったためではなかろうか。また、「授業内容（教科）」（4名）に関しても、関心が集まっている。小学校時代と違って教科担任制となり難しい学習が多くなると考え、興味があったのではなかろうか。そして、「受験する中学校の様子（制服・校舎）」（5名）・「試験内容」・「通学方法」と、中学受験に関する情報収集がみられた。学区外にある国立・私立等の中学校へ受験することを考える児童が一定数いることから、このような記述がみられたと考えられる。「空白・特になし」が47名（68.1%）と多数を数えているが、これは地域の中学校への進学のため特に調べたりしなかったためではなかろうか。

## (4) 学校全体に関わる仕事で心に残っていること

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。

- ・ 委員会活動（児童会・飼育・放送・美化・行事・新聞） 26
  - ・ 運動会（応援団・放送） 12 ・ 1年生の世話 3
  - ・ 掃除 3 ・ 文化祭 ・ 合唱祭
- 「空白・特になし」24名（34.8%）

「学校全体に関わる仕事で心に残っていること」では、「委員会活動（児童会・飼育・放送・美化・行事・新聞）」（26名）が一番多かった。小学校6年生は、1～5年生の後輩の面倒をみながら、学校のリーダーとして委員会活動を率先して行わなければならない、その責任感の重さや、仕事を成就した後の達成感、先生からの肯定的な評価等で記憶に深く残っているのではなかろうか。「運動会（応援団・放送）」（12名）も多くの学生が記述していた。これは、学校行事として、多数の保護者や地域の方々が参観に来られ、その前での活躍が記憶に残っているのではなかろうか。「空白・特になし」が24名（34.8%）で、3割以上の学生が無回答であった。小学校6年生は、何らかの形で学校全体に関わる仕事を行っているが、自分にとって達成感の乏しい働きしかできなかったケースもあるのでこのような結果になったとも考えられる。



### (5) 自分の将来の夢

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。

・保育士 16 ・幼稚園教諭 13 ・ケーキ屋 3  
 ・生花店 3 ・マンガ家 3 ・保育士か幼稚園教諭 2  
 ・子どもに関わる仕事 2 ・書道教室 2  
 ・トリマー 2 ・バレリーナ 2 ・小学校教諭  
 ・ピアノ教師 ・音楽教諭 ・新体操選手  
 ・バレーボール選手 ・本屋 ・パン屋  
 ・ファッションデザイナー ・歌手  
 ・キャビンアテンダント  
 ・テーマパークのキャスト ・看護師  
 ・アナウンサー ・画家 ・会社社長 ・ショップ店員  
 ・料理講師 ・人を笑顔にする仕事  
 ○「空白・特になし」7名(10.1%)

「自分の将来の夢」では、「保育士」(16名)・「幼稚園教諭」(13名)・「保育士か幼稚園教諭」(2名)・「子どもに関わる仕事」(2名)・「小学校教諭」と、合計34名(49.3%)が、幼児教育心理学科に関わる仕事を記述していた。およそ半数が既に小学校6年生の段階で、現在実現しようとしている職種を将来の夢としていたことが分かる。小学校6年生で考えていた進路選択を、中学校・高等学校と進学する中で、持続的に堅持していったのではなかろうか。その他の記述では、「ケーキ屋」(3名)・「生花店」(3名)・「マンガ家」(3名)など、女子児童が一般的になりたいと考えている職種が並んでいる。まさに幼児から夢見ている職種をそのまま将来の夢としていたと考えられる。また同様に、「スポーツ関係(バレリーナ・新体操選手・バレーボール選手)」(4名)・「音楽関係(ピアノ教師・音楽教諭・歌手)」(3名)も記述がみられた。その他、「本屋」・「看護師」・「ショップ店員」と、多種多様な職種が回答された。「空白・特になし」が7名(10.1%)と、小学校6年生段階で、9割の児童が将来の夢を持っていることが分かる。自分の将来の夢は何かを幼児の頃から考えさせる指導に関して、家庭での教育を含めて継続的にやってきたから、このような結果になったのではなかろうか。

### (6) 夢をかなえるための努力

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。

・ピアノ(エレクトーン) 15 ・子どもと遊ぶ 5  
 ・クラブ活動 4 ・習字 3 ・絵を描く 3

・職業に係る読書 3 ・絵画鑑賞 ・塾 ・歌唱  
 ・料理作り ・ケーキ作り ・自営業手伝い  
 ・家事手伝い ・色々なことに積極的に取り組む  
 ○「空白・特になし」30名(43.5%)

「夢をかなえるための努力」では、「ピアノ(エレクトーン)」(15名)・「習字」(3名)・「絵を描く」(3名)という技能の向上に関わる記述や、「子どもと遊ぶ」(5名)という記述をしており、「保育士」(16名)・「幼稚園教諭」(13名)・「保育士か幼稚園教諭」(2名)・「子どもに関わる仕事」(2名)・「小学校教諭」と、合計34名(49.3%)が、幼児教育心理学科に関わる仕事を記述している上記(6)と対応していることが分かる。また、上記(6)の記述にある「スポーツ関係(バレリーナ・新体操選手・バレーボール選手)」(4名)と対応し、「クラブ活動」(4名)を努力していることと記述している。「空白・特になし」が30名(43.5%)と多数を占めていることが分かる。これは、上記(6)の「空白・特になし」が7名(10.1%)と、9割の児童が将来の夢を持っていることを考えた場合、夢はあるが具体的にどのように努力をすれば良いかわかっていないという情報不足のために、このような結果になったのではなかろうか。

### (7) 自分の生き方に影響を与えた先生とその影響

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。

・児童第一で真剣な熱い先生→一人一人と向き合う大切さ・積極的に物事に関わる姿勢・将来について考える機会 21  
 ・叱るときには叱るが優しい性格→善悪の区別・けじめ・きまりを理解 9  
 ・面白くて元気な先生→物事をポジティブに考える性格 7  
 ・厳しい指導→忍耐力やマナーの大切さ 3  
 ・優しく笑顔が素敵で先生→将来の大人のモデル 3  
 ・字の綺麗さ→字を書くモデル 2  
 ・話し合いで問題解決→相手に思いを伝える大切さや相手の立場に立った言動の重要性  
 ・人生で大切なことを伝えてくれた先生  
 ・日本史が好きな先生→日本史が好きになる  
 ・宿題が多く毎日百マス計算→計算が早くなる  
 ・怖い性格→人の目を気にする性格  
 ○「空白・特になし」22名(31.9%)

「自分の生き方に影響を与えた先生とその影響」では、

「児童第一で真剣な熱い先生」(21人)を一番にあげており、誠心誠意子どもと向き合ってくれている先生が自分の生き方に影響を与えたと考えていることが分かる。そのような先生からは、「一人一人と向き合う大切さ・積極的に物事に関わる姿勢・将来について考える機会」という影響を受けていることが分かる。また、「叱るときには叱るが優しい性格」の先生から、「善悪の区別・けじめ・きまりを理解」(9名)していることが分かり、ルールの徹底を図り、けじめをつけた言動を求め、規範意識を育てようとする先生から生き方の影響を受けていることが分かる。「面白くて元気な先生」から「物事をポジティブに考える性格」(7名)になれたことを記述している回答もあり、自分の性格にまで影響が及んでいることも分かる。そして、「優しく笑顔が素敵な先生」から、「将来の大人のモデル」(3名)という記述がみられ、自分が生きていく上での模範となる人物として先生を捉えていることが分かる。父親・母親や祖父母などの親族を除いた場合、長時間接している「大人」は学校の「先生」が一番であり、自分の生き方に多大な影響を与えられたのではなかろうか。回答の中で唯一、「怖い性格」の先生と出会い、「人の目を気にする性格」になるという負の影響を受けた場合もみられた。「空白・特になし」が22名と3割を越えているが、自分との相性が合わない先生としか出会えなかったのではないかと考えられる。

#### (8) 小学校の先生以外で自分の生き方に影響を与えた人

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。

- ・習い事の先生(ピアノ・書道等) 8
  - ・母親 7
  - ・友達 5
  - ・幼稚園の先生 4
  - ・クラブ関係(顧問・先輩) 4
  - ・祖父母 3
  - ・両親 2
  - ・塾の先生 2
  - ・弟
- 「空白・特になし」33名(47.8%)

「小学校の先生以外で自分の生き方に影響を与えた人」では、「習い事の先生(ピアノ・書道等)」(8人)が一番多くの回答であった。これは、学校外で週に1～2回定期的に会う大人としてあげられたのではないだろうか。「母親」(7名)をあげた回答は、愛情を注いでくれ保護してくれる一番身近な同性の大人として尊敬できる存在として記述したのではなかろうか。「友達」(5人)をあげた回答は、学校生活(土日を含む場合も考えられる)の中で一番長い時間を過ごす遊び仲間として記述したのではなかろうか。「幼稚園の先生」(4名)をあげた回答は、幼児期に出会う親切で自分を助けてくれて遊んでくれる身近な大人と

して記述したのではなかろうか。「空白・特になし」が33名(47.8%)で、5割近くが自分の生き方に影響を与えた人はいないと回答している。このことは、小学校で出会う先生の影響力の強さを示しているとも考えられる。

#### (9) 前項に関わって受けた影響

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。

- ・将来の大人のモデル(寛容性・優しさ・包容力・忍耐力・けじめ・積極性・明瞭性・頑張ることや諦めないことの大切さ) 14
  - ・進路選択(保育士か幼稚園教諭) 6
  - ・人生を楽しむ大切さ 3
  - ・チームワークの大切さ 2
  - ・ピアノを通して音楽全体が好きになる 2
  - ・挨拶や礼儀(マナー) 2
  - ・勉強の楽しさ 2
  - ・人と深く関わることの幸せ
  - ・人に対して優しい気持ちを持つ姿勢
  - ・字の書き方を丁寧に教えてくださり、自分に自信が持てる
  - ・バレーボールをする楽しさ
- 「空白・特になし」34名(49.3%)

「前項に関わって受けた影響」では、「将来の大人のモデル(寛容性・優しさ・包容力・忍耐力・けじめ・積極性・明瞭性・頑張ることや諦めないことの大切さ)」(14名)という回答が一番多い。これは、小学校の先生という社会全体からみた場合に特殊な職業人以外の多様な生き方に影響を受けたのではないだろうか。「進路選択(保育士か幼稚園教諭)」(6名)という回答をみた場合、幼児期に様々な支援をしてくれた良い出会いの体験から、将来の職業選択に繋がったのではなかろうか。「人生を楽しむ大切さ」(3名)・「人と深く関わることの幸せ」・「人に対して優しい気持ちを持つ姿勢」という回答から、自分自身の人生を楽しむ姿勢や他者との関わりについて影響を受けていることが分かる。「チームワークの大切さ」(2名)・「挨拶や礼儀(マナー)」(2名)という回答から、集団行動や規範意識の醸成、社会性の涵養といった面で影響を受けていることが分かる。「空白・特になし」が34名(49.3%)であることは、前項の「空白・特になし」の割合に対応していると考えられる。

#### (10) 自分の生き方に影響を与えた小学校時代の出来事

この項では、次に示す記述の結果を元に分析・考察を行う。

- ・友達との出会い 5 ・バレーボール 4 ・ピアノ 3
- ・クラス内の喧嘩 3 ・転校 3 ・マラソン大会 3
- ・習い事 2 ・学習発表会 2 ・学芸会 2
- ・野外活動 2 ・恋愛 ・台風による浸水被害
- ・妹の誕生 ・弟の誕生 ・入院 ・クラブ活動
- ・いたずらを叱られたこと ・体育委員 ・運動会
- ・給食の時間 ・ディスカッションの授業
- ・習字の展覧会 ・フットベースボール ・ドッジボール
- ・修学旅行

○「空白・特になし」34名（49.3%）

「自分の生き方に影響を与えた小学校時代の出来事」では、「友達との出会い」（5名）が一番多く、友達という一番身近な他者との関わりの中で、自分の生き方に影響を与えられたと考えられる。また、「バレーボール」（4名）・「ピアノ」（3名）・「習い事」（2名）・「クラブ活動」と、課外での活動で継続的に努力を重ねたことが自分の生き方に影響を与えられたと考えられる。そして、「マラソン大会」（3名）・「学習発表会」（2名）・「学芸会」（2名）・「野外活動」（2名）・「運動会」・「修学旅行」と、学校行事において頑張ったことが自分の生き方に影響を与えられたと考えられる。

#### 4. おわりに

本稿では、広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科4年の学生（69名）に対して、小学校時代のキャリア教育（進路指導）に係るアンケートを実施し、小学校時代のキャリア教育（進路指導）の実際を分析してきた。最後に、その分析を元に、今後の小学校における望ましいキャリア教育（進路指導）の在り方を考察したい。「小学校6年生のキャリア教育についての振り返り」から、「①話し合い（学級会、委員会、児童会など）には積極的に参加していましたか。」については、43名（62.3%）が肯定的回答をしており、比較的、良好な結果となったと考えられる。しかし、より積極的に学級会、委員会、児童会などの話し合いに児童が参加するように教員が主導して行く必要がある。

「②何かを決めるとき、自分の立場だけでなく他の人の立場にも立って考えて、決めていましたか。」については、53名（76.8%）が肯定的回答をしており、比較的、良好な結果となったと考えられる。しかし、クラス担任等が通常の授業時間を含めて、学級活動や道徳の時間等を活用して支持的で共感的な学級づくりを行い、他者の立場に立った言動ができるように温かな人間関係を形成していく必要がある。

「③身近な産業や職業の様子を知っていましたか。」については、39名（56.5%）が否定的回答をしており、学校教育全体で改善していく必要があると考えられる。特に、低学年の生活科から、身近な職業について興味・関心を持たせる指導を行い、中学年以降、社会科の地域学習や産業学習において理解を深めさせる指導を行わなければならないのではなかろうか。「社会見学」で工場等を参観する取り組みがみられるが、単発的な体験学習に終わるのではなく、事前指導において、関連する職業に関わる事項を児童に調べさせて理解を深めさせることが求められる。また、事後指導では、単に感想文を書いて纏めるだけでなく、他者に体験したことや分かったこと、考えたことをプレゼンテーションすることによって、自己の理解を深めさせる指導が必要ではなかろうか。

「④働くことの大切さを知っていましたか。」については、31名（44.9%）が否定的回答をしており、学校教育全体で改善していく必要があると考えられる。これは、上記「③身近な産業や職業の様子を知っていましたか。」と関連づけて、働くことの意義や重要性について認識させることが求められる。そのためには、低学年から日頃の係活動や清掃活動の大切さを指導し、徹底してそれらを行わせることが重要であると考えられる。

「⑤学校の中で、高学年としての役割を果たしていましたか。」については、54名（78.3%）が肯定的回答をしており、比較的、良好な結果となったと考えられる。しかし、今後もクラス担任等が、児童が高学年になる前から、高学年の果たすべき役割やその意義について考えさせる指導を行い、意識の向上を図る必要性が求められる。そして、高学年になってからも、委員会や児童会でリーダーシップが発揮できるように支援していくことが重要であると考えられる。

「⑥将来、やりたい仕事について考えていましたか。」については、61名（88.4%）が肯定的回答をしており、比較的、良好な結果となったと考えられる。しかし、少数とはいえ8名の児童は将来の職業について考えておらず、学校教育全体で職業について考えさせる学習の改善をしていくとともに、クラス担任等が一人一人の児童を丁寧に指導していく必要があると考えられる。

「⑦係、委員会、児童会などでは、学級や学校をよくすることを考えながら活動していましたか。」については、34名（49.3%）が否定的回答をしており、学校教育全体で改善していく必要があると考えられる。これは、上記「⑤学校の中で、高学年としての役割を果たしていましたか。」と関連づけて、係、委員会、児童会などの活動の意義について十分認識させる必要がある。このこと



は、低学年から学校という集団における自己の役割を常に意識させることが重要であると考えられる。

「⑧将来の夢のために、努力していることがありましたか。」については、42名（60.9%）が否定的回答をしており、学校教育全体で改善していく必要があると考えられる。上記「⑥将来、やりたい仕事について考えていましたか。」と関連づけて、将来の職業選択に関わって具体的に努力しないといけないことを情報提供し、より一人一人にあった取り組みを指導することが求められる。

「自分の良いところや頑張っているところ」に関しては、14名（20.3%）が「空白・特になし」となっているが、比較的、良好な結果となったと考えられる。特に、友達との関わりや自己の日常生活で頑張っていること、また、習い事やクラブ活動等での努力を記述している回答が多く、今後もクラス担任をはじめとして周囲の大人が、積極的に児童を肯定的に評価しながら支援していくことが求められている。

「中学校について調べたこと」に関しては、47名（68.1%）が「空白・特になし」となっており、課題であると考えられる。小学校と中学校の接続に係る教育を考えた場合、上級学校に行った場合、どのような教育がなされるのか、教科に関わる学習はどのようにすべきなのか、クラブ活動はどのようなになっているのか、校則等を含めた生徒指導はどのようなになっているのかなど、小学校卒業前に理解を深めさせ、中学校生活への見通しを持たせる指導を行っていく必要があると考える。

「学校全体に関わる仕事で心に残っていること」に関しては、24名（34.8%）が「空白・特になし」となっており、課題であると考えられる。委員会活動や運動会・文化祭・合唱祭などの諸行事において、それぞれ役割分担を行い、自分の活動が学校全体の活動と深く結びついていることを考えさせる必要がある。

「自分の将来の夢」に関しては、62名（89.9%）が具体的な回答しており、良好な結果となっているが、「夢をかなえるための努力」では、30名（43.5%）が「空白・特になし」となっており、前述したように、将来の職業選択に関わって具体的に努力しないといけないことを情報提供し、より一人一人にあった取り組みを指導することが求められる。また、若干ではあるが7名が「自分の将来の夢」を記述しておらず、学校教育全体で自己の将来の職業について考えさせる学習の改善をしていく必要があると考えられる。

「自分の生き方に影響を与えた先生とその影響」に関しては、47名（68.1%）が記述しており、クラス担任を中心とする小学校の先生の影響力の大きさが伺える。「一人

一人と向き合う大切さ・積極的に物事に関わる姿勢・将来について考える機会」について影響を受けたと記述している回答が多く、まさに将来に渡っての自己の生き方と深く結びついていることが分かる。しかし、22名（31.9%）が「空白・特になし」となっており、日常の学校生活において、教員は児童とより深く関わることを求められるとともに、より良い学級経営をしていくために、研修等に参加して自己研鑽に励む必要があるのではないかと考える。

「小学校の先生以外で自分の生き方に影響を与えた人」に関しては、習い事の先生や、身近な母親や友達を記述しているが、33名（47.8%）が「空白・特になし」となっており、前述の小学校の先生から受けた影響力の強さが伺える。受けた影響に関しては、「将来の大人のモデル（寛容性・優しさ・包容力・忍耐力・けじめ・積極性・明瞭性・頑張ることや諦めないことの大切さ）」と記述されており、具体的な影響力をあげている。今後、大人と触れ合うことで児童は様々なことを学んでいくため、地域の行事等の活性化が求められる。

「自分の生き方に影響を与えた小学校時代の出来事」では、友達との出会いや課外での活動、「マラソン大会」・「学習発表会」・「学芸会」・「野外活動」・「運動会」・「修学旅行」などの学校行事の記述がみられた。しかし、34名（49.3%）が「空白・特になし」となっており、クラス担任が中心となって、親和的な学級経営を行い、共感的なクラスづくりから友達との友好的なコミュニケーションを図っていく児童を育てることが求められる。また、人間関係の形成に深く関わる学校行事の更なる充実も必要とされる。

本稿では、小学校時代のキャリア教育（進路指導）の実際を分析し、今後の小学校における望ましいキャリア教育（進路指導）の在り方を考察したが、今後はより詳細で具体的な方策について考察をしていく必要がある。

## 引用文献

- 1) 戸田浩暢, 大学生が振り返る中学校時代のキャリア教育, 広島女学院大学人間生活学部紀要第3号, pp. 49-50, 2016

## 参考文献

- 文部省「中学校における進路指導に関する総合的実態調査報告書」平成11年3月
- 文部科学省「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」(中央教育審議会答申)平成11年12月
- 国立教育政策研究所「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」平成14年11月



広島県教育委員会「わたしのキャリアノート～夢のスケッチブック～（児童生徒用 6 年）」広島県教育委員会ホームページホットライン教育ひろしま（<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/>）平成28年10月12日

広島県教育委員会「広島県におけるキャリア教育の充実に向けて（提言）」広島県教育委員会ホームページホットライン教育ひろしま（<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/>

[kyouiku/](http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/)）平成28年10月12日

広島県教育委員会「キャリア教育実践の手引き」広島県教育委員会ホームページホットライン教育ひろしま（<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/>）平成28年10月12日

広島県教育委員会「キャリア教育の推進」広島県教育委員会ホームページホットライン教育ひろしま（<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/>）平成28年10月12日